

平成21年度 山口県立徳佐高等学校高俣分校 学校評価書 校長（爲久 薫雄）

1	学校教育目標 校訓・・・自主創造 親和協同 努力実践 教育目標・・・豊かな人間性と生きる力の育成
---	--

2	現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて） ・遅刻、欠席、早退はほとんどなく、生徒の生活態度は非常に落ち着いており、生徒指導上の懲戒処分等は全くない。生徒は互いに人間性を認め合い、良好な人間関係を築いているが、生徒数が少ないため、校内だけでは人間関係が限定されている。 ・乳幼児や高齢者と交流し、他者の役に立つ経験をすることで、生徒たちは少しずつ自己肯定感を実感するようになってきており、諸活動において自ら計画を立て、主体的に取り組もうとする姿勢が見られるようになってきた。 ・家庭学習習慣が身に付いておらず、基礎基本が十分に習得できていない生徒に対する指導を継続して行う必要がある。そのためには、校内外における教科研修と指導力向上に取り組む必要がある。
---	---

3	本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 <table border="0"> <tr> <td> <本年度重点を置いて取り組む目標> ・学ぶ意欲、考える力の育成 ・心の教育の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・キャリア教育の充実 ・多様な教育課題の解決 </td> <td style="text-align: center;">⇒</td> <td> <目指す成果> ・確かな学力の定着 ・豊かな心の醸成 ・健やかな体の創造 ・自己実現の支援 ・信頼される学校づくり </td> </tr> </table>	<本年度重点を置いて取り組む目標> ・学ぶ意欲、考える力の育成 ・心の教育の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・キャリア教育の充実 ・多様な教育課題の解決	⇒	<目指す成果> ・確かな学力の定着 ・豊かな心の醸成 ・健やかな体の創造 ・自己実現の支援 ・信頼される学校づくり
<本年度重点を置いて取り組む目標> ・学ぶ意欲、考える力の育成 ・心の教育の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・キャリア教育の充実 ・多様な教育課題の解決	⇒	<目指す成果> ・確かな学力の定着 ・豊かな心の醸成 ・健やかな体の創造 ・自己実現の支援 ・信頼される学校づくり		

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	魅力ある授業の実践	教科指導の研修や他の学校のオープンスクール等に積極的に参加し、教科指導力の向上を図る。	4 授業アンケートで生徒の満足度が100% 3 授業アンケートで生徒の満足度が80%以上 2 授業アンケートで生徒の満足度が60%以上 1 授業アンケートで生徒の満足度が60%未満	3	校内外において授業研修等に取り組み、教科指導力の向上を図った。年2回実施している授業アンケートではすべての項目において高い評価を得ている。しかし、家庭での学習習慣が定着していないことが課題として残っている。	授業に対する生徒の満足度は高いと思える。家庭学習の習慣を身に付けるために、適切な課題を定期的に与えるなどの工夫が必要であると思う。	B
生徒指導	協調性・公共心・マナー・他者に働きかける力等、社会性の育成	ボランティア活動、高齢者団体や近隣の高等学校との合同行事等、地域と連携した活動の充実を図り、様々な人々とかかわる機会を増やす。	4 地域と連携した行事が年間20回以上 3 地域と連携した行事が年間15回以上 2 地域と連携した行事が年間10回以上 1 地域と連携した行事が年間10回未満	4	ボランティア活動等、地域と連携した活動を年間29回実施した。高齢者や幼児、他校の生徒等、様々な人々とかかわる機会を多く設けることで、他者と協力する姿勢や自己の役割を認識する力、自分の考えを表現する力を身に付けることができた。	地域と連携して取り組んできた様々な活動が、生徒の社会性やコミュニケーション能力等を育む絶好の機会になっている。	A
進路指導	主体的な進路選択と確実な進路実現	三者面談の早期実施や進路情報の提供方法の改善等を行うとともに、確実な進路実現に向け、就職指導員の積極的活用や企業訪問の強化を図る。	4 第1希望の進路を実現できた生徒が100% 3 第1希望の進路を実現できた生徒が80% 2 第1希望の進路を実現できた生徒が60% 1 第1希望の進路を実現できた生徒が60%未満	4	個々の希望・適性に応じた進路情報の提供や三者面談の早期実施等に取り組み、進路を早い時期から生徒に考えさせたことが進路実現100%につながった。また、個別指導の徹底や就職指導専門員の積極的活用により、試験にも十分対応することができた。	進路意識の高揚を図り、早い時期から希望進路をしっかりと把握し、個に応じた進路指導を全校体制で取り組まれたことは高く評価できる。	A
健康安全	自己の健康管理の徹底	麻しんワクチンの全員接種を目指すとともに、健康診断後の病院受診率を高める。また、食育や生活習慣についても継続的な指導を行う。	4 健診後等の受診届提出率が80%以上 3 健診後等の受診届提出率が70%以上 2 健診後等の受診届提出率が50%以上 1 健診後等の受診届提出率が50%未満	4	定期健康診断後、保護者へ治療勧奨の通知文書を送付するとともに、該当生徒へ声かけを行った結果、治療はすべて完了した。なお、麻しんワクチンの接種率も100%である。また、保健だよりを活用し、継続的に食育の指導を行った。	生徒が健康を自己管理できるようにきめ細かく指導されたことは、社会人としての今後の生活の中でも生かされると思う。	A
相談活動	相談活動の充実	生徒が相談しやすい環境を整え、計画的な相談活動を実施する。	学校アンケートの「悩みや相談には適切に対応している」に肯定的に回答した生徒・保護者が 4 80%以上 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満	4	アンケートを計画的に実施して、生徒の生活状況の把握に努め、必要に応じて個別面談を行った。学校アンケートの「悩みや相談には適切に対応している」に肯定的に回答した生徒・保護者は100%であった。	生徒の心身の状態を把握し、早期発見・早期対応に取り組まれたことが十分に理解できた。	A
特別活動	環境美化やボランティア活動の推進	校内外の美化活動や地域におけるボランティア活動に積極的に取り組み、美化意識や奉仕の精神を育む。	学校アンケートの「環境美化やボランティア活動に積極的に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒・保護者が 4 80%以上 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満	4	年間を通して地域でのボランティア活動を行った。また、地域での美化活動や日常の清掃活動にも積極的に取り組んだ。学校アンケートの「環境美化やボランティア活動に積極的に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒・保護者は100%であった。	一人暮らしの高齢者宅への弁当配達や地域清掃などのボランティア活動を年10回程度行っていることは素晴らしい取組で、豊かな人間性の育成につながると思う。	A
開学かづれたり	家庭や地域への情報発信	Webページ・ブログ等を定期的に更新し、年3回、学校広報を地域に配布する。	4 Webページ・ブログ等の更新が年間70回以上 3 Webページ・ブログ等の更新が年間60回以上 2 Webページ・ブログ等の更新が年間50回以上 1 Webページ・ブログ等の更新が年間50回未満	3	1月末の時点でWebページ・ブログの更新は58回で、定期的に更新を行ってきた。また、学校広報は地域に3回配布した。耐歩大会や24時間テレビ等の学校行事でTV取材を受けることも多く、教育活動を広く情報発信することができた。	読みやすい広報紙で、学校の教育活動を十分に知ることができ感謝している。TV取材でインタビューを受ける生徒の受け答えも立派で感心した。	A
3年部	自分の考えや意見を表現する力の育成	生徒が関心のある新聞記事を取りあげ、それに関する感想や意見を発表する。担任は、毎月5回、生徒に新聞記事を紹介する。	4 新聞記事に関する意見発表会が年間10回以上。 3 新聞記事に関する意見発表会が年間8回以上。 2 新聞記事に関する意見発表会が年間6回以上。 1 新聞記事に関する意見発表会が6回未満。	3	新聞記事に関する意見発表を通して、自分の考えや意見を表現しようとする態度を養うことができた。しかし、考えを生徒にまとめさせる段階での指導が不十分であったため、論理的に思考し、表現する力を十分に身に付けさせることができなかった。	表現力が乏しい若者が多い昨今で、大変よい取組であったと思う。生徒が考えをまとめた文章を新聞社の企画などに応募する試みがあるとさらによかった。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
業務	学校の組織等 職員研修の 充実	校外研修の参加促進と研修成果の還元に取り組み、資質能力の向上を図る。また、他校の取組等の情報提供も行う。	4 校外研修の還元研修会が年間5回以上 3 校外研修の還元研修会が年間4回以上 2 校外研修の還元研修会が年間3回以上 1 校外研修の還元研修会が年間2回以下	3	校外研修の還元を4回行い、情報の共有化を図った。他校の授業公開には教員1人当たり1.5回参加しているが十分とはいえない。また、教育情報を積極的に提供したり、定期購入する教育雑誌を増やすなど、教職員の資質向上に努めた。	校外研修の成果還元や教育情報の提供など、教職員の資質向上に努められている点は評価したい。人材育成の観点からも今後も継続的に取り組んで欲しい。	B
	日常的な業務 会議の運用 の効率化	協議事項と連絡事項の選別を徹底し、時間の削減を図る。	4 会議の平均時間が60分未満 3 会議の平均時間が70分未満 2 会議の平均時間が80分未満 1 会議の平均時間が80分以上	3	十分な協議が必要なものを職員会議の議題として取り上げることにより、会議時間の短縮を図ることができた。教員集団が小さいため、日頃から報告・連絡・相談が徹底できていることも会議の効率化につながっている。	組織として業務に取り組むためには報・連・相は重要なので今後も徹底して欲しい。会議は時間ではなく、前向きな議論ができる雰囲気大切であると思う。	A
	勤務状況 退校時間の 管理	協働体制を推進し、超過勤務の削減を図る。	4 退校時間の年間平均が勤務時間から30分以内 3 退校時間の年間平均が勤務時間から60分以内 2 退校時間の年間平均が勤務時間から90分以内 1 退校時間の年間平均が勤務時間から90分超	2	一人の教員に業務が偏らないように留意するとともに、教員同士が互いに協力し合って業務に取り組める環境づくりに努めた。1月末現在で、1日の超過勤務の平均時間は教員一人当たり1時間7分であった。今後、協働体制をより一層推進していく必要がある。	限られた時間で効率よく業務を遂行し、効果的な教育活動を行うためには、業務の中でスクラップ&ビルドに取り組み、常に業務改善に努めることが重要である。	B

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ・「わかる授業」を目指して日常的に授業研修に取り組み、生徒の授業に対する満足度は高くなってきた。また、基礎的・基本的な知識や技能の習得はもちろんのこと、自分の考えや思いを発表する機会を多く設けて表現力の育成に努めるなど、確かな学力の定着を図ることもできた。しかし、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒も多く、主体的な学習姿勢の育成が課題であると考えている。
- ・ボランティア活動に積極的に取り組むことにより、公共心や協調性等、社会性の涵養を図ることができた。また、乳幼児や高齢者との交流活動を通して受容的態度が身に付き、相手を思いやり尊重する心が育つなど、豊かな心を醸成する教育が実践できた。
- ・保健だよりなどを利用して健康に関する情報を提供し、生徒が健康を自己管理できるように指導を行った。定期健康診断で判明した疾患については治療がすべて完了した。また、新型インフルエンザに罹患した生徒は0人で、病気や怪我等による保健室利用者も大幅に減少するなど健やかな体を育むことができた。
- ・小規模校のよさを生かし、徹底した個別指導や複数回の三者面談、さらには管理職による面接指導など、自己実現に向けた支援に全校体制で取り組んだ。生徒一人ひとりが自己の在り方・生き方をしっかりと考えた上で主体的な進路選択を行い、9月には全生徒が第1志望の進路を実現することができた。
- ・地域の人々が学校行事に参加できる機会を設けたり、生徒が地域行事に積極的に参加するなど開かれた学校づくりに努めてきた。また、学校の様々な取組を積極的に情報発信することで、教育活動に対する地域の理解も深まり、評価も高くなってきた。

7 次年度への改善策

現任校で実践してきた個に応じた学習指導・進路指導、地域と連携した交流活動、食育を中心とした健康管理など知・徳・体のバランスのとれた教育活動に転任校でも積極的に取り組んでいきたい。